



四日市看護医療大学

四日市看護医療大学学報 No.11

[発行日]平成29年12月20日 [発行]四日市看護医療大学 庶務課
〒512-8045 三重県四日市市富生町1200 TEL.059-340-0700 FAX.059-361-1401 <http://www.y-nm.ac.jp/>

看護基礎教育の発展を願う



水野 正延 副学長

2017年4月1日付けにて副学長に着任いたしました水野正延です。四日市看護医療大学は2007年4月に開学し、11年目を迎えました。前年度には丸山康人学長が暁学園の理事長にも就任されており、学園の建学の精神である「人間たれ」を強力に推進する体制が整った中で着任できましたことを光栄に思います。卒業生が就職する臨床現場においては、医療に対するニーズの増大や多様化が進み、看護の役割が変化、拡大しています。さまざまな要望に応えるべく、質の高い看護提供体制の整備・推進するため、看護職員の養成や人材確保は重要な課題となっています。わが国では1990年代後半から看護系大学が増加し、本年

度には265大学を数えるまでに増加しました。医療の高度化に対応するため、4年間の看護教育を受ける看護師が増えることは、医療全体ではプラスの面が多いと思われます。一方で、大学の急増のために教育の質の担保が求められています。そのため日本看護系大学協議会は、文部科学省と共同して看護系大学におけるモデル・コア・カリキュラムの導入を決定しています。

本学は学校法人暁学園と四日市市、市立四日市病院との公私協力方式により運営されており、高度な専門性と豊かで温かい人間性をもった看護師・保健師・助産師の育成をめざしています。また2011年4月に開設した大学院では、文部科学省が提唱する4つの目標のうち、特に高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成に力を注いでいます。本学と協定を締結している四日市市は、「四日市市安心の地域医療検討委員会」を設立して三次医療から在宅医療までを組織化し、地域医療の推進に積極的に取り組んでいます。

以上のように多様な教育環境を踏まえ、本学は今まで以上にケア能力の高い看護師を養成し、社会へ送り出すことが重要な課題です。私は今後とも、市立四日市病院をはじめ、近隣の中核医療機関や福祉施設を臨地実習の場として教育を充実し、優れた卒業生を送り出す社会的責任を果たすために邁進する所存です。よろしくお願い申し上げます。



平成29年度 四日市看護医療大学・大学院 入学式



平成29年4月2日(日) 本学11期生及び大学院7期生の入学式が挙行されました。

当日は、四日市市副市長をはじめとしたご来賓と多くのご家族の方々に見守られながら、学部生112名、院生2名の新生入生が新しい学生生活のスタートを切りました。

丸山康人学長からの入学許可宣言で始まった式典では、学部生代表の川浦風紗さん、院生代表の岡林由起さんそれぞれが入学生宣誓を行い、これからの学生生活に向けて新たな決意を述べました。

教員からのメッセージ

講師 鈴木 里美

基礎看護学実習IIは2年次の後期に行われ、学生は病院ではじめて一人ひとりが受けもち患者を受けもち、その人に必要な日常生活行動援助を考えて行う実習です。

学生は、実習開始時には緊張と不安でコミュニケーションをとることに困難さを感じていました。しかし、実習指導者や教員のアドバイスで患者の話を傾聴し、入院生活による日常生活行動の変化や生活への影響を捉え、これまで学習した知識や看護技術をもとに、患者にとって必要な食事、清潔な環境、排泄等の援助を実施することができました。

5日間という短い期間でしたが、学生は日常生活行動援助を通して、看護の原則である安全・安楽・自立を考えて援助することの大切さを学ぶことができました。また、「気持ちよかった。ありがとう。」と喜んでもらったことで、やりがいやうれしさを感じていました。

このように基礎看護学実習IIは、看護の魅力を発見できる機会になっています。今後は、実習で見出した自己の課題に取り組み、看護専門職としての基礎作りができることを願っています。



学友会 新入生歓迎会

毎年恒例となっている新入生歓迎会。これは学友会が主催し、同級生や先輩たちと親睦を深めてもらうきっかけにと開催しています。今年は4月4日(火)のオリエンテーション最終日、学友会会長の挨拶からはじまりました。新入生たちは、入学式や連日のオリエンテーションで緊張の連続でしたが、ジュースや乾杯したあと、軽食をとりながらクラブ・サークル紹介やビンゴゲームで大いに盛り上がりました。短い時間ではありましたが、これから共に4年間を過ごす仲間や先輩たちと打ち解けた様子でした。



平成29年度 教育後援会役員会・総会



6月3日(土)に開催された教育後援会役員会・総会の主な内容は、7月にお届けした本学季刊誌「オレンジの風」に掲載しましたが、この「オレンジの風」は、毎年、総会に出席されている保護者の方からいただいた貴重なご意見がきっかけとなり、刊行されることが決定したものです。総会出席者が年々減少し、本来大学の様子を知り、情報交換を行う場である総会としてはあまりにも寂しい、とのご意見にこたえるため、これまで学内限定で発行していた教学ニュースをリニューアルし、保護者の皆さまにもご覧いただけるようご家庭へお送りすることにしました。次号からも、その時々々の学生の声や活動内容を

中心に、興味・関心を持っていただけるような記事を掲載していく予定です。総会では、その他にも学生サービスの向上に繋がる様々なご意見をいただきました。今後も忌憚のないご意見がいただけるよう、また、保護者・大学の交流が深められるよう、風通しの良い教育後援会を目指してまいります。

平成29年度 保護者懇談会



岡平教育後援会会長を始め、保護者の皆さまの暖かいご支援により、今年も保護者懇談会を9月30日(土)に無事開催することができました。教職員一同、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

主なプログラムは季刊誌「オレンジの風」10月号に掲載しましたので、本紙では当日の様子をご紹介したいと思います。全体会や講演会は緊張した空気の中で行われましたが、学生食堂での懇親会が始まると、岡平会長の軽妙洒落なご挨拶により会場の雰囲気は一気に和やかなものとなりました。教員とだけでなく、当日初対面の保護者の方同士も大いに歓談を楽しまれているようでした。緊張感のほぐれた非常に良い雰囲気のまま、午後からのアドバイザー教員との個別面談に移ることができたのではないのでしょうか。保護者と大学だけでなく、保護者同士の情報交換の場でもある貴重な一日です。保護者の皆さまが求めていらっしゃる情報を、よりわかりやすい形で提供できるよう教職員一同精進してまいります。

オープンキャンパス

平成29年度オープンキャンパスが、夏休み期間中の7月22日(土)、8月20日(日)に実施されました。残念ながら当初予定の8月7日(月)は台風接近に伴い中止となりました。当日予定していた助産関連プログラムに複数のお問い合わせがあり、8月20日に助産関連プログラムを追加しました。その影響もあり、当日は過去最高の参加者数となり、2回の参加者数の合計は589名となりました。今年度も東海地方を中心に多くの高校生や保護者様にご参加いただき、山梨、富山、大阪など遠方地域からの参加もあり、本学への関心の高さがうかがえました。

当日の内容として、午前中の全体説明会では、四日市市健康福祉部理事の濱田様から本学への支援制度などのお話をいただき、続いて大学概要、今年度入試について説明を行いました。その後、学生食堂へ移動しバイキング形式の昼食で学食体験、午後は、模擬講義、看護体験実習、施設見学など自由にイベントに参加し、大学の雰囲気を感じて

いただく時間としました。そして、学生ホールでは入試相談コーナーや、在学生と直接話しができる「先輩と話そうコーナー」を設け、入試や奨学金、大学生活などについて、熱心にスタッフの話に耳を傾ける参加者の姿が多く見られました。

来年度も更に充実したオープンキャンパスにできるよう努めていきたいと考えます。



教職研修の活動について

平成29年度 FD (Faculty Development) 委員会の活動について

FD委員会委員長 豊島 泰子

FD委員会の主な活動は、前学期・後学期の講義を受講した学生に対して行う授業評価と教員の教育力の向上のための研修を行っています。授業評価では、その集計結果を全教員に示し、その結果を踏まえ専任教員からリフレクションペーパー(行動の振り返り)の提出を求め、リフレクションペーパーを含めた授業評価結果を図書館に一定期間情報公開し、教員及び学生の閲覧希望者には閲覧できるようにし授業改善を図っています。閲覧者は、徐々に伸びているもの全教員が閲覧するまでにはいきません。一方、教員の教育力の向上に向けては、8月に全教員を対象に「障がいがある学生の対応方法」について研修会を実施し情報共有を行いました。12月には、「FDマザーマップを活用した社会貢献力の向上」を目指す研修会を開催する予定です。

近年、大学は文部科学省から教育の質向上に向けて様々な取り組みが求められています。本学も本委員会が中心となり、全学的に教員の教育の質向上に取り組んでまいりたいと考えています。

ハラスメント対策研修会について

ハラスメント対策委員会 委員長 東川 薫

本学では開学以来、セクシャル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等、各種ハラスメントの発生を防止することを目的として、ハラスメントへの理解を深め、その防止を考える研修会を実施してきました。

ちなみに昨年度は、『アスペルガー症候群の学生を理解し支援するために』というタイトルのDVDを全教職員で視聴しました。障がいへの理解が足りない場合、それがハラスメント発生の原因となることが考えられるためです。

本年度は12月に2回に渡り、『新しくそう、防ごう、気づこう アカデミック・ハラスメント』というタイトルのDVDを全教職員で視聴する予定です。

また、ハラスメント対策委員会に所属する教職員は例年、名古屋大学にて開催されるハラスメント対策研修会に参加しており、一昨年度はその成果を他の教職員へ広げる形の研修会を実施しました。

ハラスメントについては、常にその防止を意識し続けなければならないものです。ですので、今後も継続して、皆でその防止に取り組んでいくことが必要だと考えます。

保健室紹介

保健担当 山口 理絵

保健室は、1階エレベーター横の学生相談室の隣にあります。学生相談室では、毎週水曜日の11:00~15:00に臨床心理士の加藤先生によるカウンセリングを実施していますが、保健室も学生の利便性を考慮し、今年度より平日(月・火・木・金)11:00~12:40の間は常時看護師が待機するようになりました。大学生ともなるとさまざまな面で自己管理ができるようになり、高校までに比べ保健室を利用する機会もそう多くはないかもしれませんが、看護学の勉強や実習に励み、国家試験を乗り越えていくためには、体力も精神力も必要となります。時にはからだやこころが疲れてしまい、体調を崩すこともあるでしょう。そのような時、保健室では学生のみなさんがこころもからだも健康でいられるよう教員や臨床心理士の先生とも連携し、サポートに努めています。

平成29年度 社会貢献活動

みえアカデミックセミナー

『高齢者と子どもの世代間交流~その心身の影響~』

准教授 小林 美奈子

平成29年8月8日(火)に三重県総合文化センターにて本学にとって10回目の参加をさせていただきました。

「みえアカデミックセミナー」は、三重県内の高等教育機関と三重県生涯学習センターが主催し、「心豊かな人生へのアクセス」という全体テーマのもと、各校がそれぞれの特色を活かしたバラエティ豊かな公開セミナーを毎年夏季に開催するものです。

今回は、小林 美奈子 准教授による『高齢者と子どもの世代間交流~その心身の影響~』というテーマで約60名の来場者をお迎えして講演を行いました。

講演内容は「世代間交流」とは高齢者、子どもそれぞれにどのような影響があるのか、これからますますの少子高齢化の時代背景に理想的な交流方法などで、小林 美奈子 准教授の穏やかなや口調に会場内は終始なごやかな雰囲気に入れられ、来場者の方々は熱心に聴講されていました。



公開講座

『子どもの病気・事故 こんなときどうしたらいいの?』

准教授 別所 史子

平成29年7月29日(土)じばさん三重5F大研修室にて「子どもの病気・事故 こんなときどうしたらいいの?」をテーマに本学准教授別所 史子の講演会を開催し、約50名の方々にご参加いただきました。

参加者の方々は子どもの病気・事故の際の予防法や防止策をはじめ、子ども目線からのさまざまな危険箇所のチェックポイントなどの講演を熱心に聴き入っておられました。また体験コーナーでは小児看護実習モデルを使用しての誤飲時の際の応急方法や緊急時でのAEDの手順方法などのデモンストレーションを実施いたしました。

お子様連れの保護者の方々から家庭内などでの身近な病気や、教育関係者の方からも感染の予防方法等のご質問をいただき、ご参加いただいた皆様の関心の高さを感じられました。

今後も市民の皆様へのニーズに沿ったテーマに基づく講演、セミナー等を考えていきます。



高齢者向け生涯教育プログラム

『タッピングタッチでリラックス』

准教授 伊藤 薫

平成29年10月13日(金)本学サロンMIEにて、今年度で3回目となる高齢者向け生涯学習プログラム「タッピングタッチでリラックス」を開催いたしました。

当日は、近隣にお住まいの方々を中心に約50名の方のご参加をいただき、本学伊藤 薫准教授が「タッピングタッチ」についての3原則である「やさしく」「ゆっくり」「ていねい」にタッチすることにより、相手はもちろんのこと自分にも癒しの効果があることなどの講演をいたしました。

「リラックス効果があった」、「体が温まった」、「早速職場や家庭で実践したい」などのたくさんの感想をいただきました。



臨地実習について

看護学は、実践の学問(実践の科学)であるといわれており、学問体系と実践体系と両面を持っており、座学で学んだ知識・技術を実践する意味でも臨地実習は非常に重要です。今年度は、5月8日(月)初日の4年生の統合実習からスタートしました。この実習は、これまで学んだ知識と技術を統合・応用し、さまざまな看護場面における看護実践能力を高める目的で2週間実施されました。学生は8つの領域にわかれ各自で課題を見つけ、看護実践能力を高めることができたようです。次いで6月には選択科目の地域看護学実習I、II(保健師課程)、8月には選択科目の助産学実習(助産師課程)が実施されました。2年生は、夏休み明けからコミュニティアクティビティ実習、基礎看護学実習Iを行いました。コミュニティアクティビティ実習では、保健所、企業、健康増進施設、本学周辺の地域住民の方の協力を得、今年度は企業の施設もお借りし、地域に向かい地区踏査を実施いたしました。学生はこの実習で看護職の役割(保健師)について学習したようです。3年生は9月19日(火)から各論実習が開始され、平成30年3月2日(金)まで母性・小児・成人・老年・在宅・精神の領域において支援方法について学びます。学生は、3年生の前期の座学で学んだ知識を臨地実習の場で実践をしています。教員は、専門知識・技術のみならず、実習態度など看護専門職として成長できるよう、臨地実習で一人ひとりの学生指導に力を入れております。今後とも皆様のご支援をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

教育推進・学生支援センター長 豊島 泰子

基礎看護学実習Iを終えて

看護学科2年生 杉山 友菜

私は実習前、初めて患者さんを受け持たせてもらうこと、患者さんとの接し方がわからないこと、自分の技術のこと、など様々な不安がありとても緊張していました。しかし、いざ患者さんの前に立つと自然と会話ができるようになりました。また、毎日ベッドサイドに行き、気持ちに寄り添う中で関係の変化に気づき、自信につながりました。そして、自分だけでは解決できないことは学生同士で話し合ったり、先生方や指導者の助言でよりよい方法を考えることができました。

基礎看護学実習Iを終えて、信頼関係を築くことの大切さを改めて実感し、患者さんを観察して寄り添うことや困っていることは何かを考えることが信頼関係を築く糸口であるということ学びました。そして、援助をしていくうちに患者さんとの距離が近づいていけたことで看護の楽しさを感じるようになりました。この学びを今後に活かしていきたいです。



Welcome図書館

本学図書館は、約25,000冊の図書を所蔵し、雑誌種数は200種以上になります。

図書データは全て電子化されており、学内LAN及びインターネットを介して学内外からの検索が可能です。

館内には、PC15台を備えるコンピュータ室が併設されており、レポート作成等に便利な学習環境となっています。また、学術情報提供のため医中誌Web等各種データベースを導入、他大学図書館との相互貸借サービスにも加入しています。

2015年12月からは電子ブックサービスを導入し、利用アクセス数は丸善eBookLibraryを契約している東海地区の大学の中で常に上位であり、学生たちは積極的に利用しています。

学外者利用については、本学卒業生及び修了生の他に、三重県内の看護・医療・福祉等に従事する関係者の方にもご利用いただくことができます。ぜひ、看護研究等にお役立てください。詳しくは図書館ホームページをご覧ください。

<http://www.y-nm.ac.jp/library/index.html>



海外研修

私はCalifornia State University, Long Beach校にて、医療英語や語学の授業を受けました。2週間学ぶ中で病院、老人施設、CSULBの看護学部など、様々な医療施設を日本との違いに着目して見学させていただきました。

各施設では英語で質問し、日本との医療の違いを学びながら考えを深め、語学力も高めることができたと思います。

初めは、自分の英語が伝わるか大変心配でしたが先生や友人の力を借りながらコミュニケーションをとりました。現地の方々は大変優しく接して下さり、英語が通じたときは大変嬉しく、英語の楽しさを覚えました。

アメリカで働く日本人看護師の方のお話は、日本人ならではの視点でアメリカの看護について聞くことができ、興味深く、知識が深まったと感じました。

病院だけでなく、ビーチ、ディズニーランド、水族館や、ショッピングモールにも行き、現地の人の生活も垣間見つつ、自分も有意義な時間を過ごし満喫できました。

この海外研修では、この機会ではできない貴重な体験を沢山させていただきました。その中で、インターネット上で聞く情報だけでなく実際に見る、聞く、感じることに意義を感じました。このような楽しく素晴らしい機会を設けて下さった関係者の方々や先生、一緒に過ごしたメンバーに感謝したいです。一生に一度の最高の思い出です。

2年生 日沖 みなみ



7月30日(日)~8月14日(月)までの16日間、平成29年度海外研修に行っていました。今年度の参加者は女子学生30名でした。学生は国際看護事情の講義の中で、研修先で学びたいテーマを明らかにした上で研修に臨みました。事前学習の成果もあり、研修中は時間が足りなくなるくらい積極的に質問していた姿がとても印象に残っています。フリータイムには、市バスに乗って、ビーチなどに出かけていました。そしてその後、夜遅くまで英語の予習復習をしており、勉強にも遊びにも全力で取り組むパワーに圧倒される毎日でした。

実際に肌で感じる異国の生活や医療現場は、何もかもが新鮮で、さらなる好奇心を刺激してくれるものでした。短期間ではありましたが、様々な研修プログラムを通して、視野が広がり、大きく成長できたのではないかと思います。最後になりましたが、研修をサポートして下さいました皆様、キラキラとした好奇心と行動力で大きな刺激をくれた学生に、心から感謝いたします。

助教 児屋野 仁美

サークル「くれよん」

「くれよん」サークルは、「e-ケアネット四日市」(医療的ケアを必要とする障がい児の家庭生活を支援するネットワーク)の活動を担うサークルとして生まれ今年で5歳になります。主に四日市市内の特別支援学校に在籍する子どもたちと、行事や遊びを通して友だち的交流を行ってきましたが、昨年は成人や幼児も利用するNPO法人へも出向き、さまざまな年齢の利用者さんとの交流も始まりました。他には障がいがあるお子さんのきょうだい支援などにピアグループ活動への参加や、自宅への訪問も行っています。まさに、「ひと」と「社会」と「未来」へつながる人材育成を、地元での地域交流で実践しているサークルです。

オレンジのかわいいイラストの入ったTシャツを見かけたら、気軽に声をかけてください。きっと、生き生きと弾む笑顔をお返しできると思います。



2017
10/28 sat
29 sun

よん祭

テーマ

彩
-いろいろ-

本学大学祭も今年で11回目、四日市大学と共同開催として9回目を迎えた「よん祭」が10月28日(土)、29日(日)に開催されました。

模擬店、カラオケ大会、〇×クイズ、お笑いライブのほか、さまざまなイベントに加え、今年は、昨年までの看護学部企画「ナースボランティア」を「プチっとナース体験」と名称変更、内容も看護棟1階から5階を使用し、たくさんの体験やイベントを企画しました。

台風の影響を心配しながらの開催となり、二日目は午前中のみとなりましたが、雨天のなか、多くの皆様にお越しいただきました。



実行委員 コメント

今年、開催した『プチっとナース体験』は、その名称から連想されるように、幅広い世代の多くの方が“気軽に参加できる”看護学部ならではの企画にしたいと考え、妊婦・老人体験、正しい手洗い、いきいき体操や、障がい児支援サークル「くれよん」、災害支援サークルや救命部によるイベントを企画、当日は多くの方にご参加いただきました。

今年も地域の皆様をはじめ、両大学の卒業生の方々にたくさんお越しいただき、無事終わられましたこと、感謝申し上げます。

大学祭実行委員長 石井 優 / 副会長 伊藤 万里萌



けやきフェスタ2017

平成29年6月4日(日)に三重郡菟野町で健康と福祉のフェスティバルけやきフェスタ2017が開催されました。昨年に引き続き、地域研究機構看護研究交流センター「地域住民の健康づくりプロジェクト」のメンバーおよび学生ボランティアが参加させていただきました。2回目の参加となる今回は、健康づくりに関するクイズラリー、がん検診の受診率向上を目的とした啓蒙活動の一環としてご家族へのメッセージカードづくりを行いました。学生はクイズラリーへの参加や、子どもたちのメッセージカードづくりのサポートを通して参加者の皆様と共に楽しいひと時を過ごすことができました。また、世代を問わず地域の皆様の健康づくりへの関心は高く、学生は参加者の皆様との交流を通して、近い将来、保健・医療に携わる者としての自覚を高めることができました。

助教 森 京子



国際交流(韓国順天第一大学の学生をお迎えして)

平成29年7月20日(木)、韓国の全羅南道順天市に位置するところにある韓国順天第一大学から5名の学生のみなさんが来訪されました。

本学3年生3名とお互いの母国語の自己紹介から始まり、両国間の看護師の働き方などの相違点や看護師としての姿勢など、将来むけて視野の広がりももてるような貴重な歓談ができました。

最後は短い時間の交流の別れを惜しむぐらいまで国境を越えたつながりをもてたようで、とても有意義な時間を共に過ごせました。

今後も「人間たれの建学の精神を軸とした本学らしい国際交流を取り組んでまいります。



みえリーディング産業展2017に参加して

みえリーディング産業展は県内最大級の産業展示会として今年で15回目の開催です。本学は一昨年からの参加で、本年度で連続3度の参加となります。県内外のものづくり、ビジネスサポート、医療・福祉、ICTなどの企業や団体が、自社の技術や製品・サービスの展示・販売することが目的です。また、2日間にわたってビジネス関係者や就職を控えた学生向けのセミナー、一般消費者や家族連れの方も楽しめるイベントが開催されました。

本学はがんの検診促進を目標に参加いたしました。今年は大学祭と重なったため、4年生の参加のみでしたが、キャンサーリボン実行委員会の委員や庶務課からの協力も得て、無事好評下で終了いたしました。本学の教育内容の広報活動を兼ねて、ポスターの作成、がん検診の推進をブースで展示、来訪者に『ハンドマッサージ』と盛り沢山の活動をいたしました。

『ハンドマッサージ』は2日間で70名と行列ができるほどでした。交代しながらブース来訪者に実施しましたので、実施に当たった委員は手が腱鞘炎になりそうでした。実施中にごがん検診の大切さと、本学の看護教育を知っていただく活動ができました。

キャンサーリボン実行委員・成人看護学教授 大川 明子



四日市市看護医療大学 2016年度(2017年3月)卒業生

就職・進路状況

就職率
98.2%

◆国および公的医療機関に多数就職

2016年度卒業生はそれぞれの看護の道に羽ばたいていきました。

【開設者別就職状況】

国(国立大学附属病院・労災病院・JCHO病院)、公的医療機関(県立病院・市立病院・赤十字病院・済生会病院・JA厚生連病院)、市町村(保健師)等で全体の約7割となり、公的な職場への人気の高さが窺えます。

【地域別就職状況】

地元三重県への就職者数が約7割を占め、今年度も看護職の充足率が全国平均を大きく下回っている三重県や四日市市からの期待に応えることができました。

【実習施設就職状況】

約半数が就職しており、本学の教育と就職が密接に関わっていることを裏付ける結果となりました。

団塊の世代が75歳以上になり、国民の4人に1人が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて日本の社会制度は今、岐路に立たされています。医療提供のあり方を、病院・施設中心のものから、「地域包括ケアシステムの推進」と「病床機能の分化・強化・連携」を基本方針とするなど在宅医療の充実に向けた取り組みが促されています。このことは看護師の需要や求人、働き方、スキルなどにも大きく影響することが推察され、本学としても、今後の動向に注視しながら、適切な学生支援を展開してまいります。

2016年度 国家試験合格率

- ◆看護師:98.2%(受験者114名/合格者112名)
- ◆保健師:95.9%(受験者49名/合格者47名)
- ◆助産師:80.0%(受験者10名/合格者8名)

2016年度 就職・進路状況 (平成2017年3月卒業生)

(単位:人、%)

項目	卒業生	就職			進学
		就職希望者	就職者	就職率	
合計	114名	111名	109名	98.2%	浜松医科大学大学院(1名)・助産専門学校(2名)

2016年度 就職先 (2017年3月卒業生)

地域別就職先			
三重県	市立四日市病院(31名)・三重県立総合医療センター(13名)・四日市羽津医療センター(7名)・松阪市民病院(6名)・伊勢赤十字病院(5名)・三重大学医学部附属病院(3名)・桑名市総合医療センター(1名)・鈴鹿回生病院(1名)・富田浜病院(1名)・村瀬病院(1名)・ヨナハ総合病院(1名)・津市(保健師)(1名)・松阪市(保健師)(1名)		
愛知県	名古屋第一赤十字病院(5名)・一宮西病院(3名)・藤田保健衛生大学病院(3名)・愛知医科大学病院(2名)・一宮市立市民病院(2名)・名古屋セントラル病院(2名)・あいち小児保健医療総合センター(1名)・海南病院(1名)・中京病院(1名)・トヨタ記念病院(1名)・名古屋掖済会病院(1名)・名古屋市立西部医療センター(1名)・名古屋市立東部医療センター(1名)・名古屋第二赤十字病院(1名)・半田市立半田病院(1名)・名城病院(1名)・八千代病院(1名)・蟹江町(保健師)(1名)		
三重県・愛知県以外			
千葉県	千葉県済生会習志野病院(1名)	静岡県	静岡市立静岡病院(1名)・すずかけセントラル病院(1名)・聖隷浜松病院(1名)
神奈川県	横浜労災病院(1名)	大阪府	淀川キリスト教病院(1名)
長野県	池田町(保健師)(1名)		
岐阜県	松波総合病院(1名)		

卒業式

平成29年3月11日(土)、四日市都ホテルにて、学位授与式を行いました。春の気配が感じられるよき日に、114名の卒業生、4名の修了生がそれぞれの進路へ巣立っていきました。卒業記念品事業として、食堂照明増設工事を施工していただき食堂が明るくなりました。ありがとうございました。

● サロンMIE 2年目を迎えて

在学生や卒業生のパワースポットとなるような癒しの空間を設けたいと平成28年4月にスタートしたサロンMIEも、早いもので2年目を迎えました。

最近ではランチでの利用も多く、他にも空き時間の勉強やグループワーク、サロンに常設されている雑誌をめくりながらおしゃべりするなど、学生たちはそれぞれの利用方法を見つけているようです。卒業生も時々遊びに来てくれるようになりました。

サロンMIEでは毎月学生や卒業生が参加できるイベントを開催し、三重県に関する情報を館内やブログで発信するなど、これからも在学生や卒業生に満足してもらえるような空間づくり・企画構成に努めてまいります。

<http://salon-mie.jp/>

● H29年度 宮崎徳子奨学金・長江拓子奨学金授与式(および河野啓子賞表彰式)

6月28日(水)、宮崎徳子奨学金および長江拓子奨学金授与式を開催しました。宮崎徳子奨学金は、開学以来、学科長、学生支援センター長、学長補佐を歴任され、現在に至るまで本学の発展にご尽力いただいている宮崎徳子先生から頂戴したご寄付を基に創設された奨学金です。また、長江拓子奨学金は、本学で教鞭を取られた後、顧問としてお力添えをいただいた長江拓子先生から頂戴したご寄付を基に創設された奨学金です。

この二つの奨学金制度は、本学の学生がより一層学習意欲を高め、看護専門職業人となる自己の目標を明確にすることにより、人材の育成に資することを目的としています。学業成績並びに本学及び社会への貢献等を審査し、宮崎徳子奨学金は4年生4名、3年生3名の計7名を、また、長江拓子奨学金は2年生1名を、それぞれ本年度の奨学生とすることを決定いたしました。

授与式では、丸山学長から賞状と奨学金が授与され、宮崎先生からは激励のお言葉や長江先生の功績などをお伺いし、その後は記念撮影。今後、この奨学金を受給された皆さんの、更なるご活躍を期待します。

なお「河野啓子賞」表彰式は、来年2月に実施される予定です。



● 本学卒業生 寺尾亮平氏が助手に!

2期生の寺尾 亮平です。今年度4月より、本学の教員として再び戻ってくる運びとなりました。日々、学部時代にお世話になった先生方と仕事を共にすることに不思議な感覚を感じております。一方で、教育者・研究者としての第一歩を母校で踏み出せることに感謝しております。在学生と共に、自らも学んだ教室で講義を受けていると友と学んだ懐かしい思い出が蘇ってきます。病院での臨床現場では、多くの対象者の方々から学びの機会を得ました。また、2年間の大学院生活では看護職者に限らず多分野の研究者との交流から学びを得ることができました。これらの学びを得ることができたのも本学で学んだ基礎教育が根底にあると確信しております。本学は、教員と学生との距離感が密接であるという強みがあります。この強みを生かし、学生に対して根拠に基づいた幅広い知識や学際的な教育が提供できるよう精進してまいりたいと考えております。

四日市市教育委員会委員に就任!

平成29年10月に本学の豊田妙子准教授が四日市市の教育委員会委員に就任しました。教育委員会とは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づいて設置、運営されている教育行政を担当する機関です。

四日市市の教育委員会は教育長及び4人の委員で構成され、委員は「人格が高潔で、教育・学術及び文化に関し識見を有するもの」のうちから市長が市議会の同意を得て任命することとなっています。

任期は4年となっており、今後の活躍が期待されます。



RUN伴 2017

認知症の人や家族、支援者、一般の人がリレーをしながら、一つのタスキをつなぎゴールを目指すイベントであるRUN伴。去年に続き今年も参加させていただきました。今回担当する区間は伊坂ダム～本学～垂坂公園～阿倉川YMCAで、学生及び教職員で編成した3チームに分かれ、それぞれの区間を見事完走しました。あいにくの雨模様でしたが、四日市市の森市長にも本学～垂坂公園区間を走っていただき、地域住民の皆様にも広くアピールすることができたと思います。RUN伴が目指す「RUN伴を通して認知症の人々と関わりながら、個人が様々なアクションをできる社会」を本学はこれからも応援していきます。

アクティブ・ラーニングの推進

平成28年度 私立大学等教育研究活性化設備整備事業により、アクティブ・ラーニング推進のため、以下の事業を実施しました。

■アクティブ・ラーニングのための機器整備

授業録画とクリッカーを組み合わせたツールPF-NOTEを導入しました。また、65インチの一体型電子黒板を3台、82インチのボード型電子黒板を2台導入し、様々な学修の場面で活用しています。

■ラーニング・コモンスの空間・機器整備

3・4階のエレベーター横にはプロジェクター・映写兼用ホワイトボードを設置しました。また、B・C教室の間のスペースには机・椅子を配置してレポート・資料作成などの学修に対応できるようにしました。

■無線LAN (Wi-Fi) 環境の構築

看護棟のほぼ全域で無線LAN (Wi-Fi) の利用が可能となる環境を構築しました。どこにいてもモバイル端末を活用した学修が可能となりました。

本学では、今後もアクティブ・ラーニングを積極的に推進し、学びの喜びを実感し、享受できるよう環境整備に努力してまいります。

本年度 学位記授与式

平成30年3月10日(土) 四日市都ホテルにおいて挙行する予定です。